

自分たちが幸せに暮らすための小さな活動が地域活性化の一助になることに気づき、繋げていく活動

釧路モカ女性プロジェクト

釧路の女性たちの小さな小さな活動を全道にただ知ってもらいたいとの思いから、2014（平成26）年度の地域活性化活動助成に申請をしました。

助成金をいただいたのはもちろん有難かったのですが、それ以上に活動を認めていただいたことが、何よりもの宝になりました。自分たちがこの地域で幸せに暮らしたいとの思いが、地域の活性化に繋がり、地域の人々を巻き込んで新風も取り込みながら、新たに継承していく意義を学ぶ大きなきっかけとなりました。

【釧路モカ女性プロジェクト発足】

Motto Ookiku Kakkoyoku Aritai（もっとおおきくかっこよくありたい）の頭文字を取ってMOKA（モカ）と名付けた団体を発足させたのは、2011（平成23）年3月11日、あの大震災のすぐ後でした。

キャリアコンサルタントとして、ハローワークのマザーズコーナー窓口で相談業務をしていた私は、震災後に来所する方々の士気のなさが気になりました。

特に、マザーズコーナーには子ども連れのお母さんたちが多く相談に来ていましたが、お母さんたちが暗い顔をしていると、子どもたちまで元気がなくなり、地域に活気がなくなるのではないかと、という危機感が襲ってきました。

その頃は、有効求人倍率もとても低く、特に子育て中の女性が求人に応募しても書類選考すら通らず、女性たちのジレンマは爆発寸前になっていました。個々に話を聞いていると、きっといい仕事をするだろうと感じる人が多く、「地域で輝く原石がいっぱいいるのになんでもったいないんだろう…」。そんな思いから、個別に相談していた求職者の方々に「みんなで集まって何かしない？」と、なんと無責任な声掛けではありましたが5人の仲間が集い、まずは団体の目的や活動内容を何度も話し合いました。

そうしているうち、活動を開始する以前の問題が沸き上がってきました。子育て中の女性が時間を調整し

ながら集会の機会を持つのは、それだけでも大変なことです。また集会の会場を借りるにも費用が掛かり、それが度重なるとお財布の中身の心配が出てきました。

シングルマザーや家庭の主婦にとっては、大きな負担となってしまいます。「だったら活動費をなんとか捻出しよう！」と前向きになってきた女性たちは、とても頼もしく感じました。

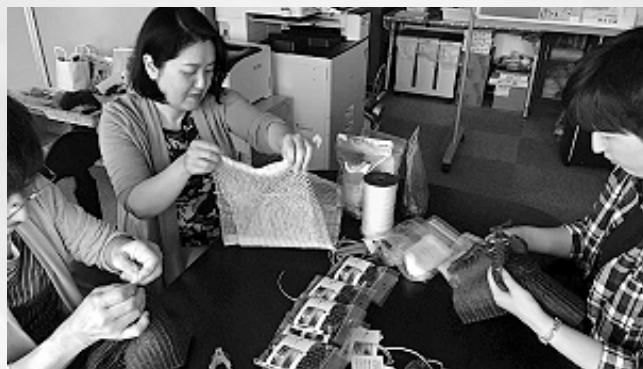
【釧路魚網タオル誕生】

月300円の会費のほか、活動費を生み出すために思いついたアイデアが、『釧路魚網タオル』でした。一昔前の漁師さんは、サンマ漁に使用する漁網を適当に切って、お風呂で泡立てて使っていた、という話を聞き、親が漁師のメンバーが漁網を入手してくれました。

さっそく、試作品を作り自分たちで使ってみると最高の使い心地で、それぞれの友人や職場仲間にも使用した感想を聞いてみると、みんな口を揃えて「最高の商品だ！」と言ってくれました。そして思いもよらないシナジーが生まれました。

- ① 水産物しかない釧路の新しい土産になったこと
- ② 内職としての仕事の創出につながったこと
- ③ 釧路市が事業として予算を算出してくれたこと

外へ仕事に出られない事情のある女性たちが、少しでもお金を稼ぎ出したことで、自分に自信を持ち、社会に参画している意識に喜び、次の階段を登る一歩に繋がっていきました。



魚網タオル作成風景（内職ワーカー）

【釧路市女性求職者就労促進事業】

2013（平成25）年からは、時代に合わせて名前を変えながらも、釧路市の女性求職者に対する事業を今も継続しています。女性求職者に対する就労支援は、多くの場合、短期間で終了するものではありません。子育て女性に対しては、子どもの年齢に応じた働き方が求められ、また家族の介護を担う女性に対しても、家族の状態を加味した時間調整が必要であり、独り身の女性には、将来の不安を少しでも解消できるように長く収入が続く方策を考えなければなりません。

人それぞれにステージも変化していくため、長いスパンでの支援が必要となり、『いつでも戻って来られる場所』の創出が必要となってきました。

【株式会社MOKA. 設立】

釧路市の事業には、就職支援講座の運營業務があり、魚網販売業務とは担当者を分ける必要がありました。団体の代表である私が相変わらずハローワークに勤務していたり、発足当初のメンバーも個人としてやりたい活動を始めたこともあって、日中の動きをマネジメントすることが困難で、各部門がバラバラとなり団体としての方向性に陰りが出始めてしまいました。

「魚網タオル」に関しては、販売店や内職ワーカーも増えてきましたが、売り上げは下がり続け、女性講座は事業受託のための審査委員会に仕事のため参加できなくなったり、団体運営をしていく中での行き詰まりが見え隠れし始めました。『いつでもだれでも来れる場所』。そんな団体の事務所が『楽しくない場所』として認識されてしまったのは、元も子もありません。



イベント参加練習風景

この状況をなんとか打破したいと考え、2017（平成29）年3月、思い切ってハローワークを退職し、団体の理念をそのままに取って利益を追求する「株式会社」を設立することにしました。

「釧路モカ女性プロジェクト」の団体は、会社に内包し、女性講座（会社設立後はMOKA's SCHOOL）に一度でも参加した人や内職ワーカーさんは、この団体のメンバーで、いつでも好きなきときに「自分たち」で活動をするためのハブの役割を持たせています。



MOKA's SCHOOL授業風景

「人づくり」「地域づくり」を会社の理念とし、活動したことでお金が生まれ、それが少しでも地域と自分たちに還元されるという形の利益追求は、地域に生きるこれからの女性たちにとって、子どもたちに伝えられるかけがえのない愛情表現であると信じて活動しています。

そして今『くしろモデル』で、まちを豊かにしようと考えている仲間たちがまわりにますます増えてきている喜びをかみしめて、これからも日々の活動を行っていきたいと思います。



株式会社MOKA.（釧路モカ女性プロジェクト）
<https://www.moka-inc.com/>